

蛭ヶ岳山荘通信 第64号

発行日 平成28年3月1日
 発行所 北丹沢山岳センター
 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL042-687-4011
 FAX042-687-3980
 事務局

西丹沢の加入道山避難小屋 昨年 12 月に新しく小屋が建て替えられました
 神奈川県の環境保全センターは西丹沢山梨県側の加入道避難小屋の建て替えを 12 月に終えました。このコースは加入道の避難小屋など順次整備され山小屋の無いところが整備されています。



丹沢山塊の山小屋がひとつ消える日
 ユーシノロッジ今年3月で民間会社(警備保障)へお下げ今年3月までにユーシノロッジを長い間当センターが管理してきましたが、神奈川県が山荘を廃止され、民間業者へ正式に引き下げる事が決まりました。お下げの条件は山小屋としても経営できるものではない莫大な費用負担が前提条件としてかかる等、当社を含め10社近くの団体も消え、警備保障会社が受諾となりました。ユーシノロッジといひピジターセンターの廃止といひ、神奈川県の自然環境行政の姿勢に疑問を持つ人は少なくないのではないでしょうか。



蛭ヶ岳山頂に石の柵囲いの土砂止め工事が終わる 相変わらず山頂よりユーシノ側側に土砂崩落がまだ止まらず昨年未だ山頂の土砂止め工事が地元業者の手により完了しました。土砂の崩落は面積が広い為に一度に全て出来るものではありません。引き続き新たに工事を進めてもらいたいと願っています。



HIRUGATAKE LODGE / 蛭ヶ岳山荘
MENU

*Snacks	
Cup Noodle (served with hot water)	¥500
*Alcoholic drinks	
Beer (Kirin, Asahi)	¥500
Sake (Japanese rice wine)	¥500
*Hot drinks	
Hot coffee	¥500
*Gold Beverages (Non-alcoholic)	
Mineral water (500ml)	¥500
Mineral water (2000ml)	¥1,200
Coke (500ml, can)	¥500
Ginger ale (500ml)	¥500
Sport drink (Pocari Sweat: 500ml)	¥500
*Souvenirs / Gifts	
Original badge (2 choices)	¥500
Wooden trekking pole (handmade)	¥700
Arrival-Certification Card	¥200
Original handana	¥500
Books / Pictures	Ask Staff

≠ Guests who hire mountain gear use the restroom (toilet) for free
 *Rest with no purchase (Toilet room available)..... ¥200

1989年(平成元年)5月20日発行の増広題2号がみの会栗原祥、山田邦昭、小室行弘3氏による「私達の物語丹沢地図帖」より蛭ヶ岳の名の由来を紹介します。蛭ヶ岳の由来 いくつか説がある。①蛭が居るから②僧の被る毘盧帽子に形が似ているから③毘盧舎那佛を祠であるから④ヒル(ノビル・ギョウジャニンニク等の植物)が生えているから、等々。新編相模風土記によれば「蛭ヶ嶽。一ニ毘盧ヶ嶽ニ作ル」と有る。津久井町鳥屋の天野益氏(78歳)によれば氏の子供の頃には蛭ヶ岳をビルヶ岳と発音していたと言う。従って修験者の丹沢入峰により毘盧舎那佛(大日如来)が勧進され、それが転化して蛭ヶ岳となったと言う説が有力と思われる。従来この説の弱点は、なぜ解り易い大日如来の名を冠せず一般的でない毘盧舎那佛の名を用いたかが疑問とされていた。しかし、こちらは考えられないだろうか。大山から更に奥の丹沢へと修行の場を広げていった修験者達が一気に奥駆けが行われるに及んで脈絡走を完成させたとは考え難い。表尾根から塔ノ岳辺りまでの登山時代もあったのではないだろうか。そして其の間に木ノ又大日、新大日が置かれた。やがて奥駆けが行われるに及んで修験者達は最高峰の蛭ヶ岳に仏の中心的存在の大日如来を勧進する事にして、既に木ノ又大日、新大日が有るため同じ名を避ける為毘盧ヶ岳の名を付けたのではあるまいか。また薬師岳の名称もあり玄倉方面で呼ばれていた。山頂に薬師如来が祠であった為であり、こちらは現存しないものの石仏の写真が残っていて其の命名に疑問の余地はない。序でながら蛭ヶ岳で蛭に吸付かれたという話は聞いた事がないし植物のヒルも命名の原因となるほど生えているとも聞いた事がない。鍋割山の項で紹介した城川氏も植物・動物のヒル説はどちらも考えられないと言われた。

鬼ヶ岩 棚沢の頭の北側のカシタ稜線上に二個の岩が対になって立っている。夫々高さ2m位の物だが、これを鬼の角に見立てたものらしい。
 姫次 「ヒメツグ」とルビをふっている案内書が多いが、地元(津久井)では「ヒメツギ」と呼んでいる。語源については不明であるが、植物の「ヒメツギ」から転化したと言う人も居れば神ノ川の折花姫伝説と混同されて説明されたりもしている。昔、敵に追われた姫が一人の家来を連れて奥山へ逃げ込んだ。途中岩の露出した急な坂道にさしかかった時、先に行けた姫を家来が見上げると姫の秘所が目にはいった。ハッとなった家来は急坂を登りきるまで目をつむっていた。そこをサネミザカという。焼山まで来たとき二人は敵に追いつかれ家来は殺されたが姫は尚も奥へと逃げた。この時追手のたいまつで山火事となり、これから「焼山」と言うようになった。しかし一時は逃れる事が出来た姫も遂に追いつかれ、あえない最後をとげた。そこを姫次と言い姫が突き落とされたところから「姫突き」が転化して「ヒメツギ」になったと言う。城川氏は「姫次」がヒメツギからの命名と言う説には否定的である。

黍殿山 黍殿(キビガラ)山は縦走路が東側の山腹を撫いでいる為に知らずに通り過ぎる人も多い。しかし変わった名前前の山である。「新編相模風土記」の青根の項には君ヶ谷(岐美我也)とあり、江戸時代の末期まではキミガヤと呼ばれていたらしい。しかし何故キミガヤと言ったのかは謎であり、何時キビガラに変化したのかもはっきりしない。神ノ川の長者舎伝説に結び付けて長者様の出作りの黍畑であったというのはキミガヤがキビガラに転化してから出来た伝説である。こうした山名の変化は前項の姫次の西側500m程の袖平山でも有り、同じく「新編相模風土記稿」で曾天多伊羅と読み方を記している。また此の辺りに丸掛の山毛櫨と言う木が有り昔修験者が札を掛け護摩を吹き法を行うと神隠しにであった人が忽然として現れたという。

編集後記
 蛭ヶ岳山荘を経営しはじめて(平成10年4月1日より)18年目を迎えました。山荘は山岳センターの運営のもとに数年前までは集団登山、ツアー登山が多かったように思われます。北海道のトラムシ岳の遭難事故より登山する人のスタイルが変わり、個人の登山客が主流となりました。それと同時に年齢も大幅に若返りました。次にくる時代の変化は何でしょうか。私も77歳、現役最後の仕事となります。ご協力よろしく願います。杉本憲昭